

令和元（2019）年度

地域国際化実態調査の概要

令和2（2020）年1月

栃木県産業労働観光部 国際課

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の目的.....	1
2. 調査設計	1
3. 調査項目	2
4. 回収結果	2
5. 調査委託先.....	2
6. 報告書中の表記について	2

II. 外国人住民調査（概要）

1. 回答者の属性について.....	3
2. 外国人住民が安心して生活できる地域社会について	4
3. 地域住民との共生関係について	9
4. 行政サービスについて.....	12

III. 日本人住民調査（概要）

1. 回答者の属性について.....	14
2. 多文化共生について	15
3. 国際交流について	18
4. 国際化に対する意識について.....	20

I. 調査の概要

1. 調査の目的

栃木県内の外国人住民数の増加を背景に、様々な分野における外国人への対応が急務となっていることから、栃木県に居住する外国人住民を対象に、生活の基本に関わる実態や意識、行政への要望を把握し、外国人と日本人が共生できる環境づくりを目指すための基礎資料とすることを目的とする。また、社会情勢や経済活動のグローバル化の進展に伴い、一般県民を対象に、地域の外国人住民に対する意識や国際化に関する現状を把握し、多文化共生や国際交流の推進に係る指針や今後の事業展開に活用していくことを目的とする。

2. 調査設計

(1) 外国人住民調査

(ア) 調査地域：栃木県全域

(イ) 調査対象：令和元（2019）年7月1日現在、栃木県内の住民基本台帳に記載のある満20歳以上の外国人住民

(ウ) 標本数：1,200人

(エ) 抽出方法：層化（市町別）無作為抽出法

(オ) 調査方法：郵送配布・郵送回収

(カ) 調査票言語：日本語と外国語の2種類を送付

※外国語は、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、ネパール語から国籍にあわせたものを使用。

(キ) 調査期間：令和元（2019）年10月9日（水）～10月31日（木）

(2) 日本人住民調査

(ア) 調査地域：栃木県全域

(イ) 調査対象：令和元（2019）年7月1日現在、栃木県内の住民基本台帳に記載のある満20歳以上の日本人住民

(ウ) 標本数：600人

(エ) 抽出方法：層化（市町別）無作為抽出法

(オ) 調査方法：郵送配布・郵送回収

(カ) 調査票言語：日本語

(キ) 調査期間：令和元（2019）年10月9日（水）～10月31日（木）

3. 調査項目

(1) 外国人住民調査

- | | | |
|------------|----------|-------------|
| ①回答者の属性 | ②住まいについて | ③病気やけがについて |
| ④災害について | ⑤仕事について | ⑥教育、子育てについて |
| ⑦日常の生活について | ⑧日本語について | ⑨行政サービスについて |

(2) 日本人住民調査

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| ①回答者の属性 | ②多文化共生について | ③国際協力について |
| ④国際交流について | ⑤国際化について | |

4. 回収結果

(1) 外国人住民調査

- (ア) 有効発送数：1,200 通
- (イ) 回収数：264 通
- (ウ) 回答率：22.0%

(2) 日本人住民調査

- (ア) 有効発送数：600 通
- (イ) 回収数：152 通
- (ウ) 回答率：25.3%

5. 調査委託先

株式会社富士通総研

6. 報告書中の表記について

- ・ 本報告書では、集計結果の数値を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、各回答の合計が100%に一致しないことがある。
- ・ 単一回答の設問は円グラフ、複数回答の設問は棒グラフで表している。
- ・ 複数回答の設問については、回答比率の合計は100%を超える。
- ・ グラフ中の「n」は回答者数を示す。グラフおよび表は、基本的に回答数の多いものから順に並べ替え表記している（「その他」等を除く）。
- ・ 文中の「前回調査」とは、「地域国際化実態調査」（平成27（2015）年3月）を示す。

Ⅱ. 外国人住民調査（概要）

1. 回答者の属性について

（1）国籍

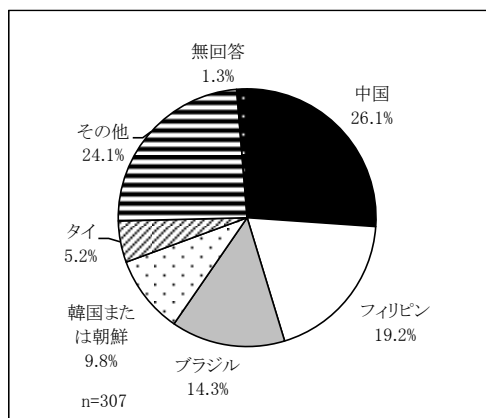
◇回答者の国籍は、上位3か国が「ベトナム」(18.2%)、次いで、「中国」(16.7%)、「フィリピン」(16.3%)となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

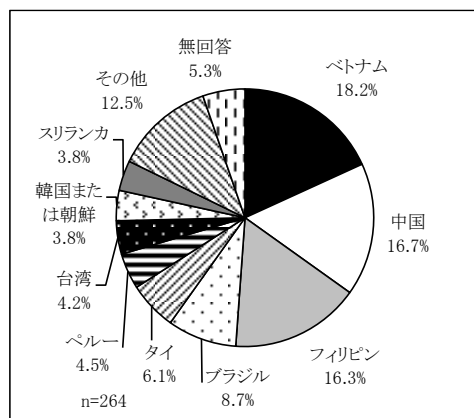
上位2か国は前回同様であるが、ベトナムの割合が増加しており最も多くなっている。

【Q1】あなたの国籍はどこですか。

前回調査



今回調査



（2）性別について

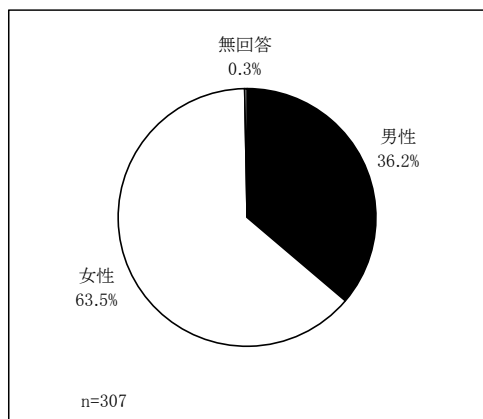
◇性別の内訳は、「男性」が45.8%、「女性」が53.0%となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

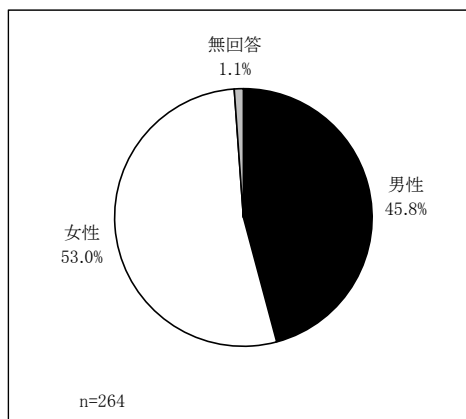
性別の内訳については、男性の割合が増加しており、男性と女性で概ね半々となっている。

【Q2】あなたの性別は何ですか。

前回調査



今回調査



2. 外国人住民が安心して生活できる地域社会について

(1) 住まい

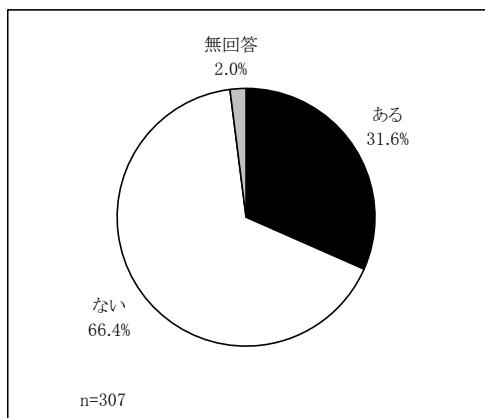
◇住まい探しで困ったことが「ある」は26.5%、「ない」が70.8%となっている。

・ 前回調査（平成 26（2014）年度）との比較

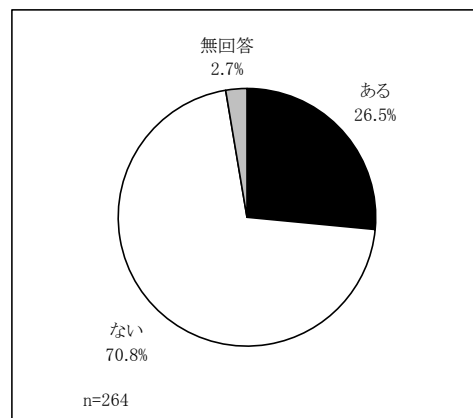
前回に比べ、困ったことが「ある」は5.1ポイント減少した。

【Q10】住まいを探すときに困ったことはありますか。

前回調査



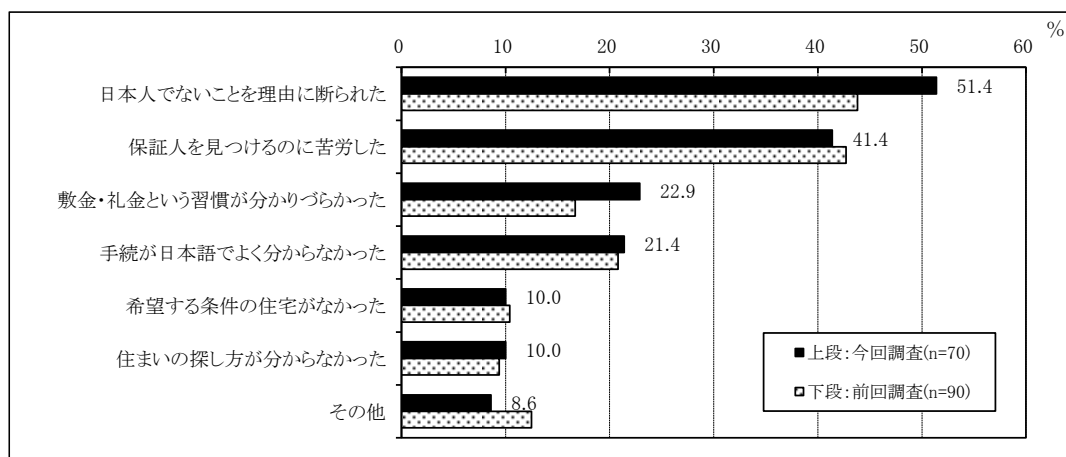
今回調査



◇困った理由としては、「日本人でないことを理由に断られた」が51.4%と最も多い。次いで、「保証人を見つけるのに苦労した」(41.4%)となっている。

【Q11（住まいを探すときに困ったことがあると回答した方対象）】

住まいを探すときに困ったことは何ですか（複数回答）。



(2) 病気やけが

◇病院や診療所に行って困ったことが「ある」は50.5%、「ない」が49.5%となっている。

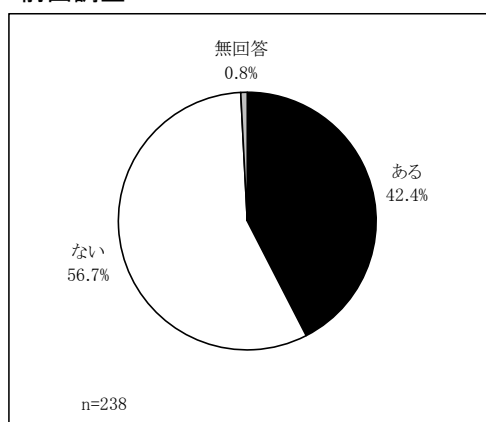
・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

病院や診療所に行って困った体験をしている回答者が約半数を占めており、前回よりも増加している。

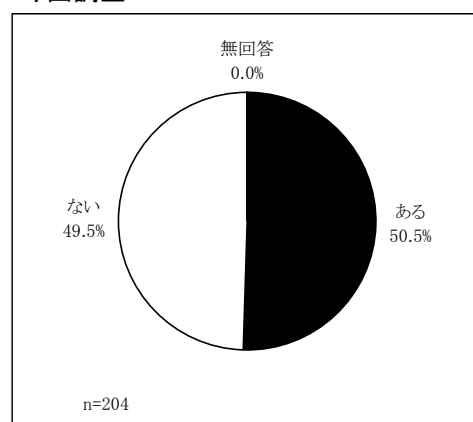
【Q16（病院等に行ったことがあると回答した方対象）】

あなたやあなたの家族が病院や診療所へ行ったとき、困ったことはありますか。

前回調査



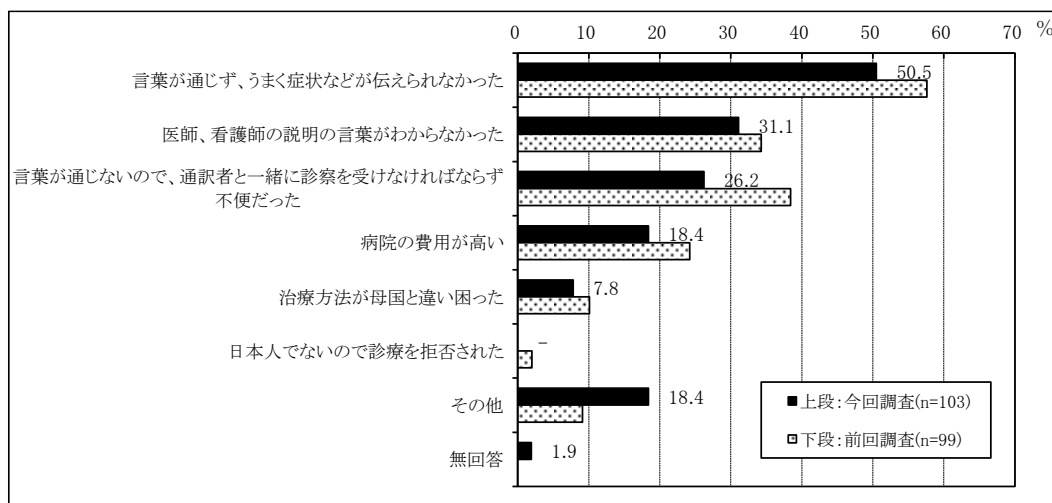
今回調査



◇困った理由としては、「言葉が通じず、うまく症状などが伝えられなかった」が50.5%と最も多い。次いで、「医師、看護師の説明の言葉がわからなかった」（31.1%）となっている。

【Q17（病院等に行って困ったことがあると回答した方対象）】

困ったことは何ですか（複数回答）。



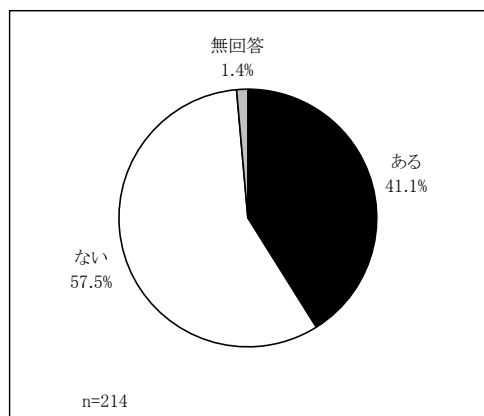
(3) 仕事

◇就職者のうち、仕事（職場）への不満が「ある」は42.2%、「ない」が55.5%となっている。

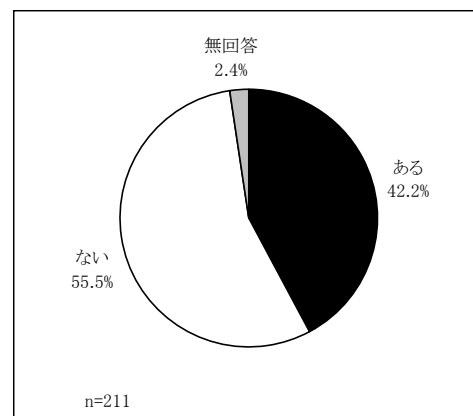
【Q24（仕事をしていると回答した方対象）】

あなたが現在の仕事（職場）で不満に思うことはありますか。

前回調査



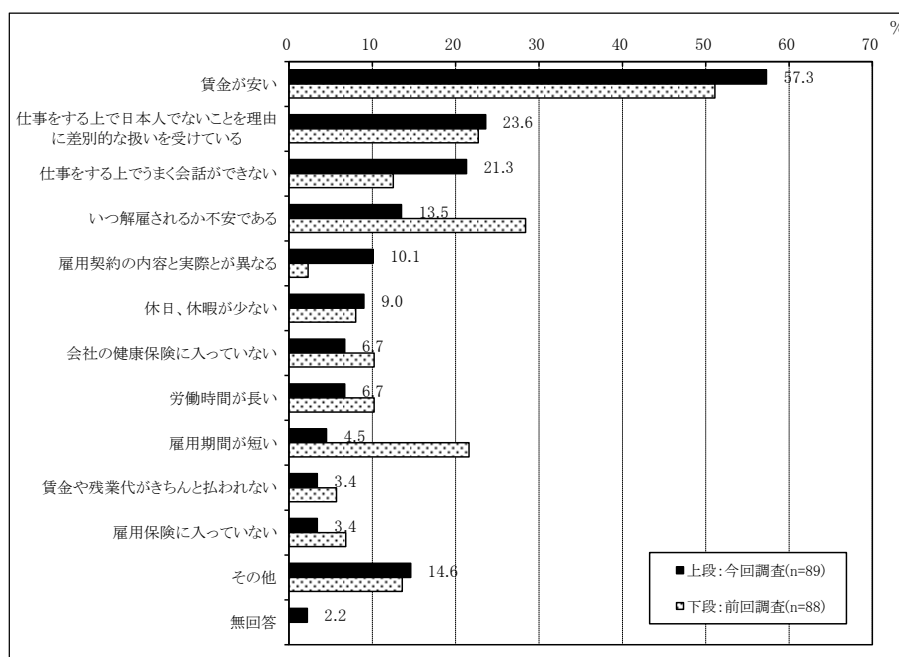
今回調査



◇不満としては、「賃金が安い」が57.3%と最も多い。次いで、「仕事をする上で日本人でないことを理由に差別的な扱いを受けている」(23.6%)となっている。

【Q25（仕事（職場）で不満があると回答した方対象）】

あなたが現在の仕事（職場）で不満に思うことは何ですか（複数回答）。



(4) 教育や子育て

◇日本での子育てで困ったこと・困っていることが「ある」は 58.1%、「ない」が 41.9% となっている。

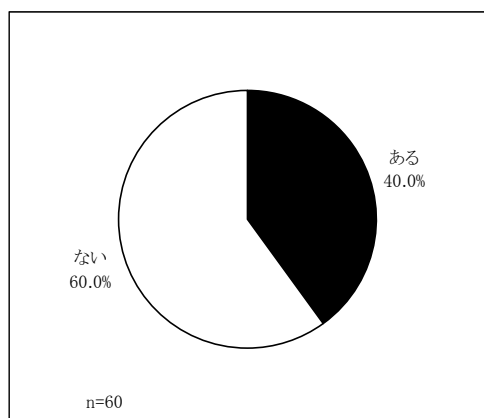
・ 前回調査（平成 26（2014）年度）との比較

前回に比べ、困ったことが「ある」が 18.1 ポイント増加した。

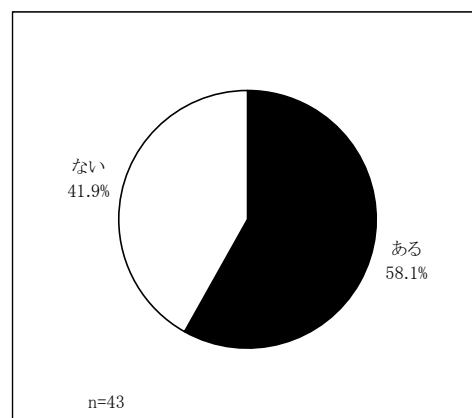
【Q29（0～6 歳の子どもがいると回答した方対象）】

日本での子育てで過去に困ったことや現在困っていることはありますか。

前回調査



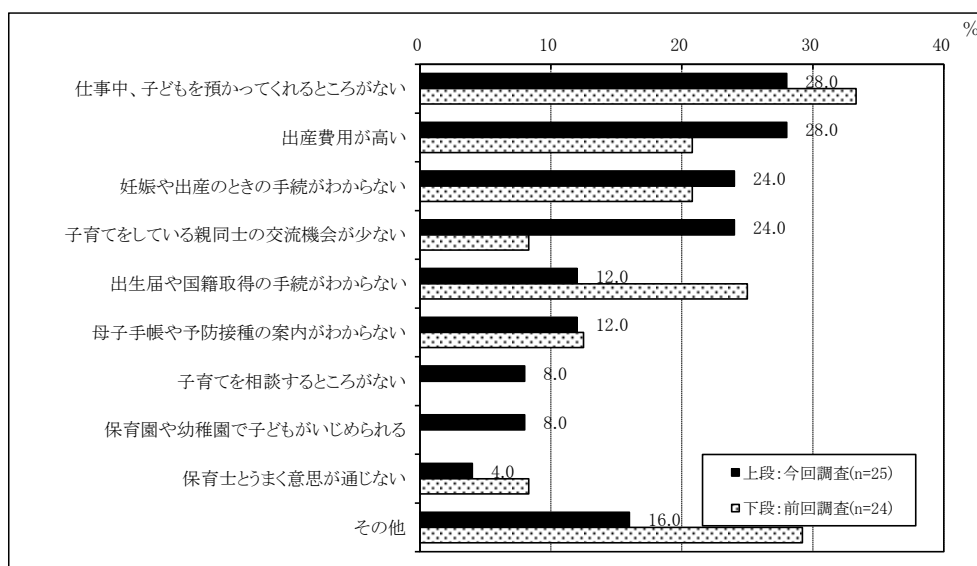
今回調査



◇子育てで困ったことは、「工作中、子どもを預かってくれるところがない」および「出産費用が高い」が 28.0%と最も多い。次いで、「妊娠や出産のときの手続がわからない」および「子育てをしている親同士の交流機会が少ない」（24.0%）となっている。

【Q30（0～6 歳の子どもがいると回答した方対象）】

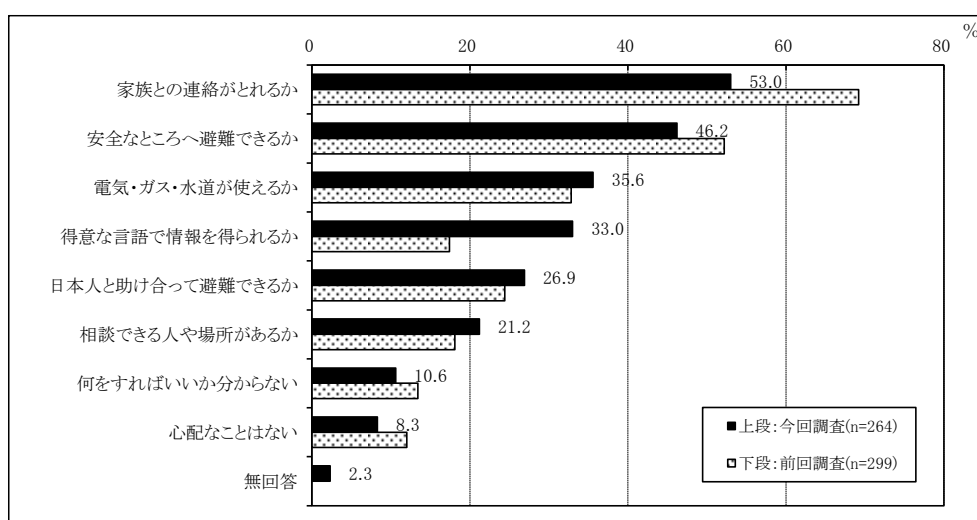
日本での子育て育児で過去に困ったことや現在困っていることは何ですか（複数回答）。



(5) 災害

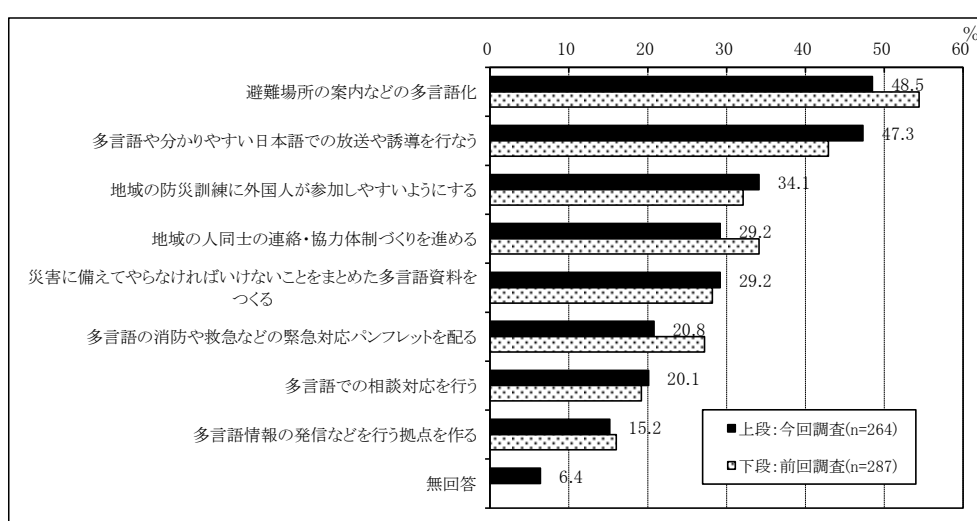
◇災害時の心配ごととしては、「家族との連絡がとれるか」が53.0%と最も多い。次いで、「安全なところへ避難できるか」(46.2%)となっている。

【Q20】あなたは、災害の時に心配なことはありますか（3つまで）。



◇災害対策として行政などに望むことは、「避難場所の案内などの多言語化」が48.5%と最も多い。次いで、「多言語や分かりやすい日本語での放送や誘導を行なう」(47.3%)となっている。

【Q21】あなたは、災害対策のために、行政などにどのようなことを望みますか（3つまで）。



3. 地域住民との共生関係について

(1) 地域活動等への参加

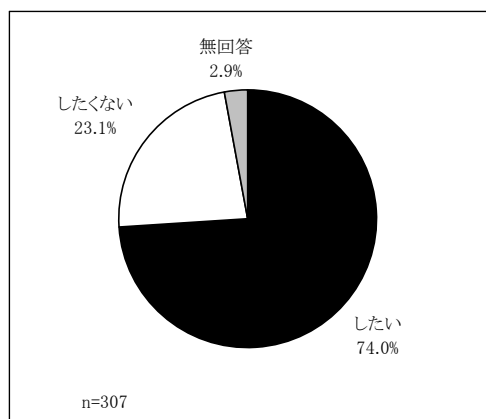
◇家族以外との人づきあいや地域活動への参加意向については、「したい」が 77.3%、「したくない」が 18.6%となっている。

・前回調査（平成 26（2014）年度）との比較

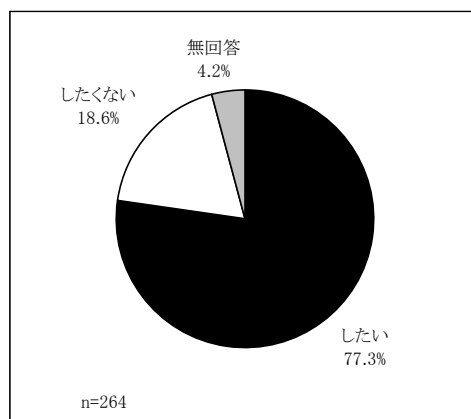
前回に比べ、家族以外との人づきあいや地域活動への参加を「したい」が 3.3 ポイント増加した。

【Q37】あなたは、日常生活の中で、家族以外の人とおつきあひしたり、地域活動に参加したりしたいですか。

前回調査



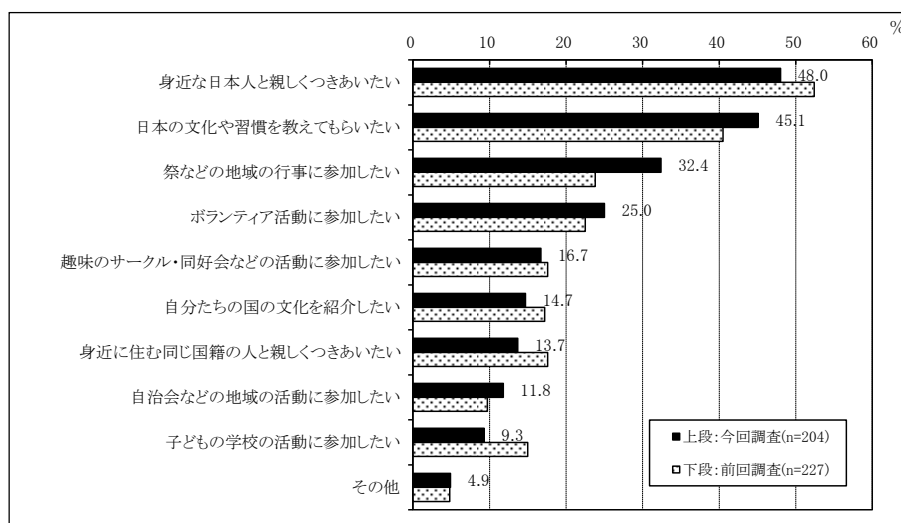
今回調査



◇日常生活で望むことでは、「身近な日本人と親しくつきあいたい」が 48.0%と最も多い。次いで、「日本の文化や習慣を教えてもらいたい」(45.1%)となっている。

【Q38（人づきあいや地域活動に参加したいと回答した方対象）】

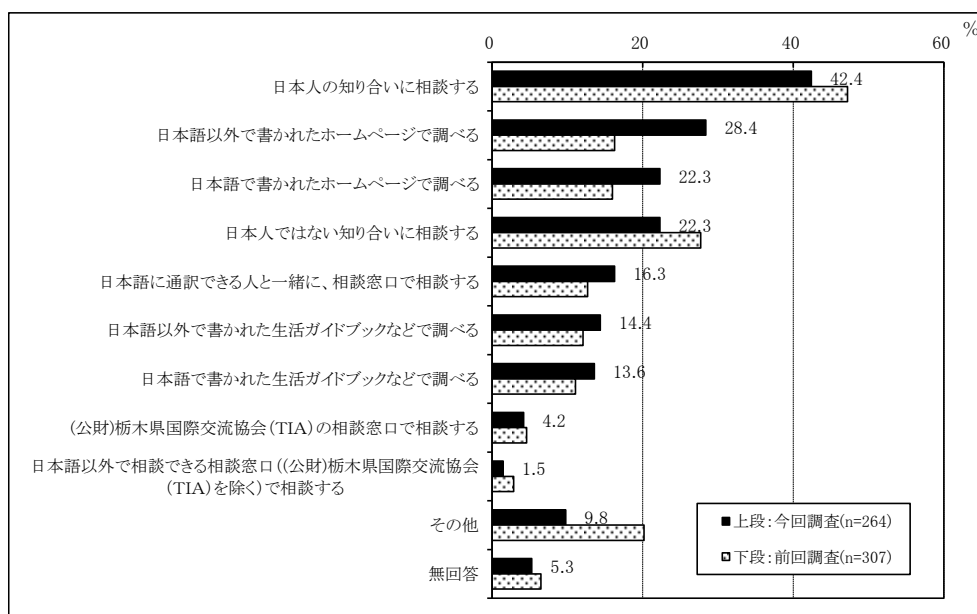
日常生活の中でどのようなことを望みますか（3 つまで）。



(2) 日常生活での相談相手（対応方法）

◇日常生活で困ったことが起きたときの対応は、「日本人の知り合いに相談する」が42.4%と最も多い。次いで、「日本語以外で書かれたホームページで調べる」(28.4%)となっている。

【Q42】あなたは、日常生活の中で、困ったことが起きたときどのように対応していますか（複数回答）。



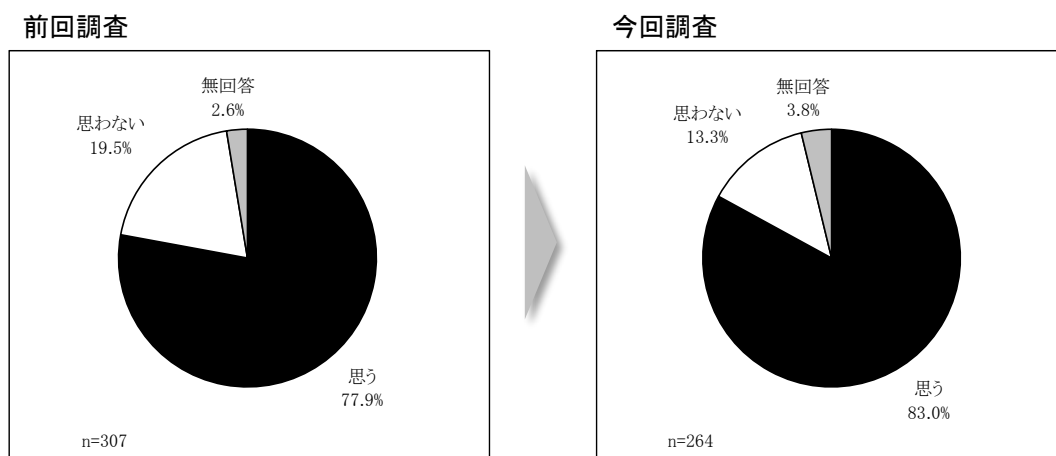
(3) 日本語

◇日本語の学習意欲については、「学びたいと思う」が83.0%、「学びたいと思わない」が13.3%となっている。

・ 前回調査（平成 26（2014）年度）との比較

前回に比べ、日本語の学習をしたいと「思う」が5.1ポイント増加した。

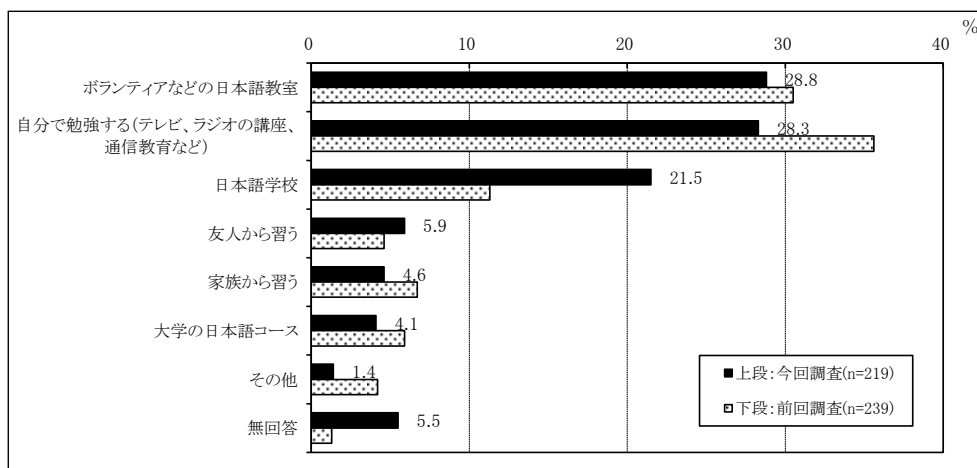
【Q44】あなたは、日本語を学びたいと思いますか。



◇日本語を学ぶ方法は、「ボランティアなどの日本語教室」が28.8%と最も多い。次いで、「独学（テレビ、ラジオの講座、通信教育など）」（28.3%）となっている。

【Q45（日本語を学びたいと思う方対象）】

あなたはどのような方法で日本語を学びたいと思いますか。



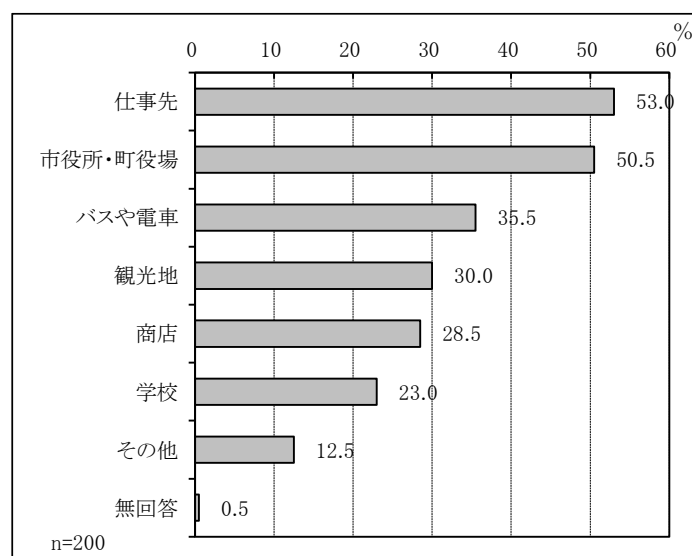
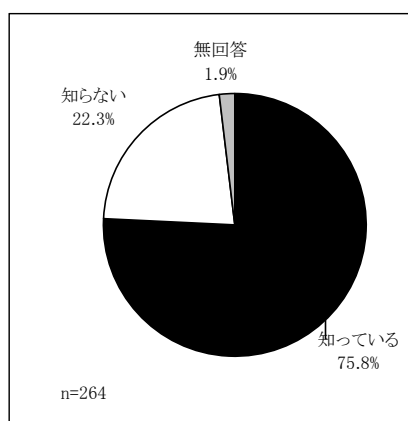
◇「やさしい日本語」について、「知っている」が75.8%、「知らない」が22.3%となっている。

◇「やさしい日本語」があるとよい場所は、「仕事先」が53.0%と最も多い。次いで、「市役所・町役場」(50.5%)となっている。

【Q47】「やさしい日本語」を知っていますか。

【Q48（「やさしい日本語」を知っている方対象）】

どのような場所に「やさしい日本語」があるとよいと思いますか。



4. 行政サービスについて

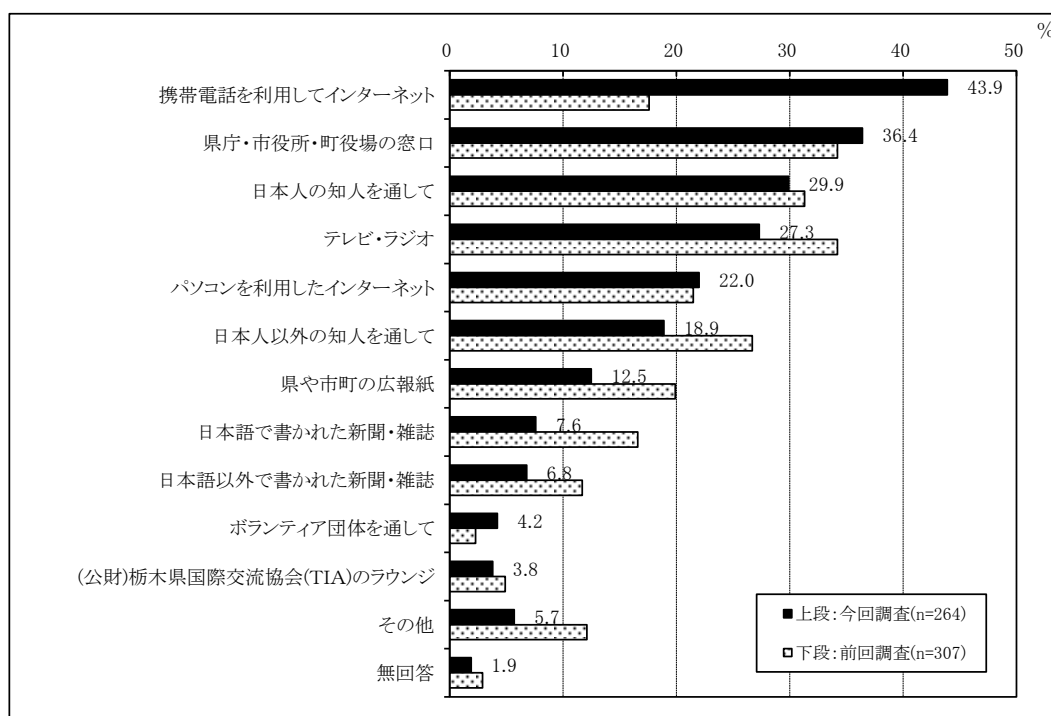
(1) 情報の入手方法

◇行政情報の入手方法は、「携帯電話を利用してインターネット」が43.9%と、最も多い。次いで、「県庁・市役所・町役場の窓口」(36.4%)となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

前回に比べ、「日本人の知人を通して」、「テレビ・ラジオ」などが減少する一方、「携帯電話を利用してインターネット」が大幅に増加した。

【Q49】あなたは、行政サービスの情報をどのように知ることが多いですか（3つまで）。

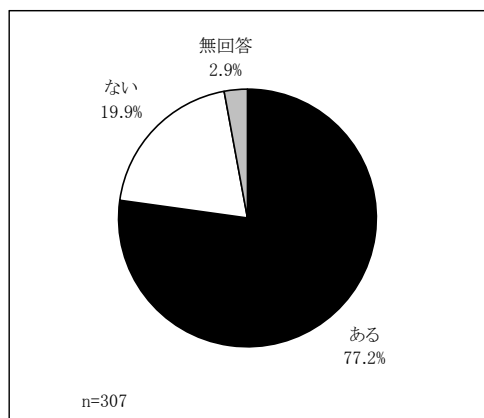


(2) 充実してほしい行政情報

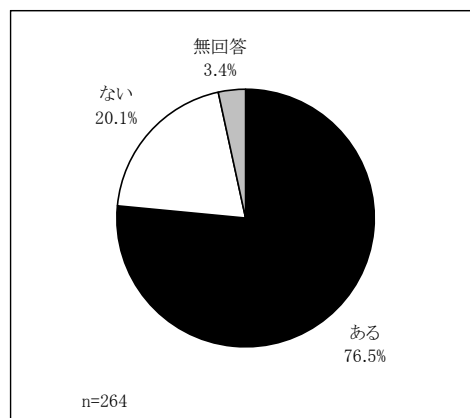
◇充実してほしい行政情報が「ある」が76.5%、「ない」が20.1%となっている。

【Q50】行政が提供する情報のうち、充実してほしい情報はありますか。

前回調査



今回調査



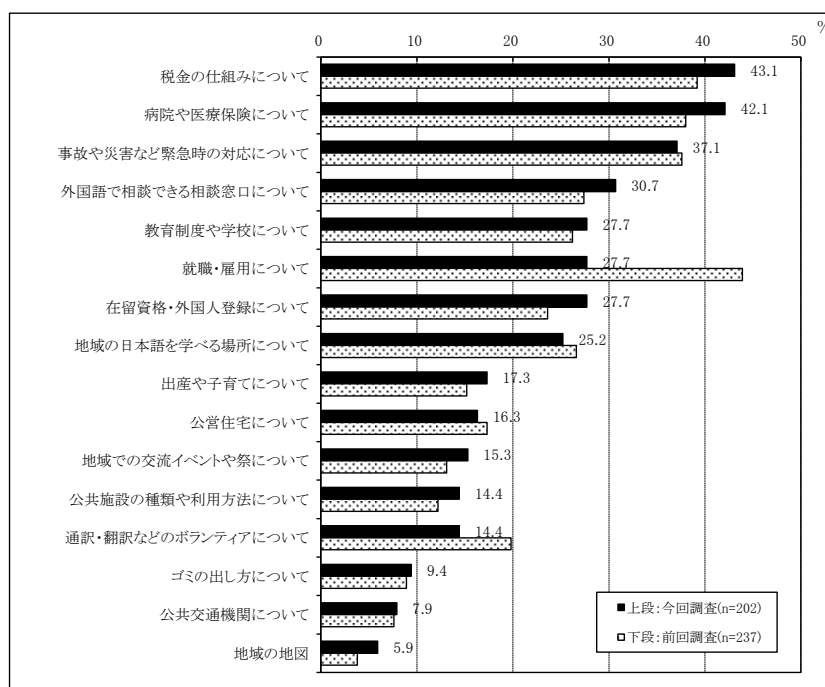
◇充実してほしい行政情報は「税金の仕組み」が43.1%と最も多い。次いで、「病院や医療保険」(42.1%)、「事故や災害など緊急時の対応」(37.1%)となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

前回に比べ、「就職・雇用について」が大幅に減少している。

【Q51（充実してほしい行政情報があると回答した方対象）】

行政から、どのような情報提供を充実してほしいですか（5つまで）。



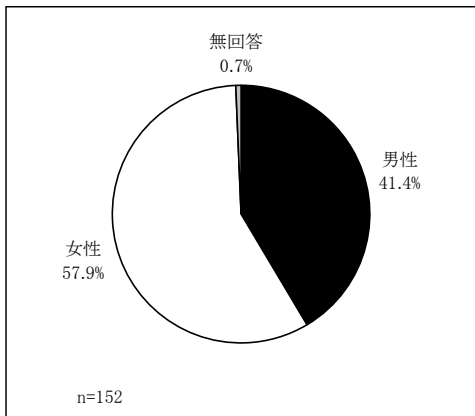
Ⅲ. 日本人住民調査（概要）

1. 回答者の属性について

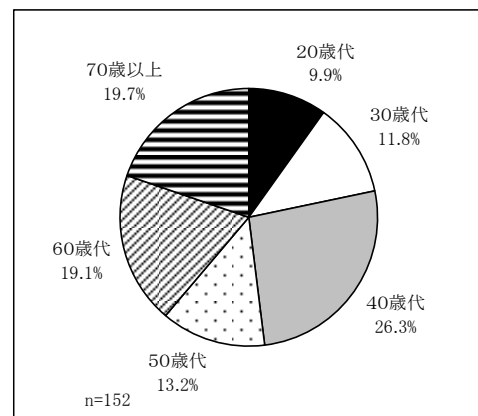
（１）性別と年齢層

- ◇性別は、男性が 41.4%、女性が 57.9%となった。
 ◇年代別では、40 歳代が 26.3%と最も多く、次いで 70 歳以上が 19.7%となっている。

【Q1】 あなたの性別についてお伺いします。



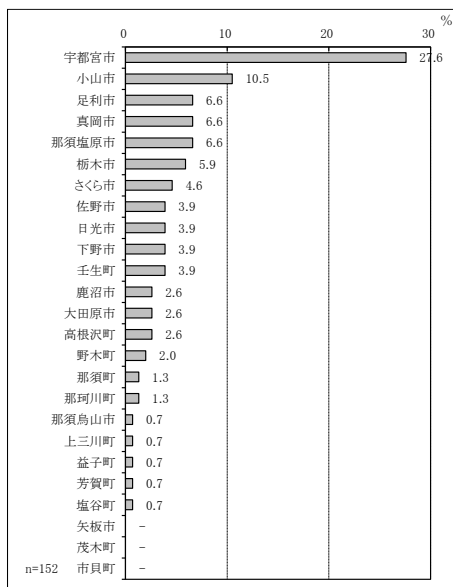
【Q2】 あなたの年齢についてお伺いします。



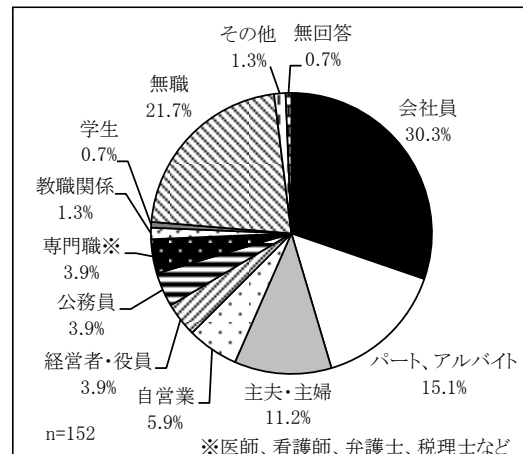
（２）住まいと職業

- ◇回答者の住まいは、宇都宮市が 27.6%と最も多く、次いで小山市が 10.5%となっている。
 ◇職業については、会社員が 30.3%と最も多くなっている。

【Q3】 住んでいる市町についてお伺いします。



【Q4】 あなたの職業についてお伺いします。

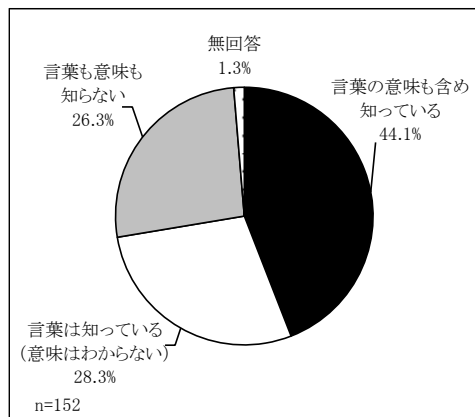


2. 多文化共生について

(1) 外国人との付き合い方

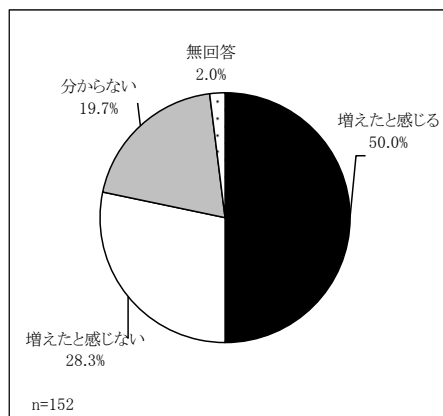
◇多文化共生については、「言葉の意味も含め知っている」が 44.1%となっており、「言葉は知っている（意味は分からない）」の 28.3%を含めると全体の 7 割超を占める。

【Q6】 多文化共生という言葉や考え方をご存じですか。



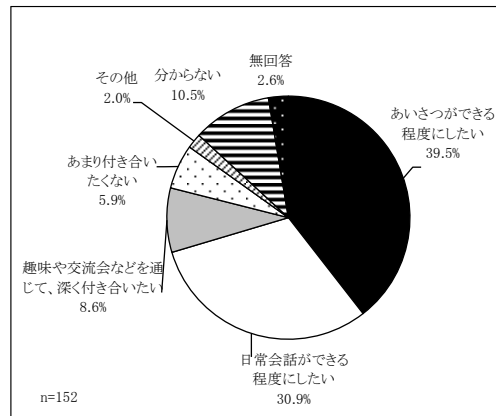
◇近隣の外国人住民の増減については、「増えたと感じる」が 50.0%、「増えたと感じない」が 28.3%となっている。

【Q10】 最近、近隣に外国人住民が増えたと感じますか。



◇外国人との付き合い方については、「あいさつができる程度にしたい」が39.5%と最も多い。次いで、「日常会話ができる程度にしたい」(30.9%)となっている。

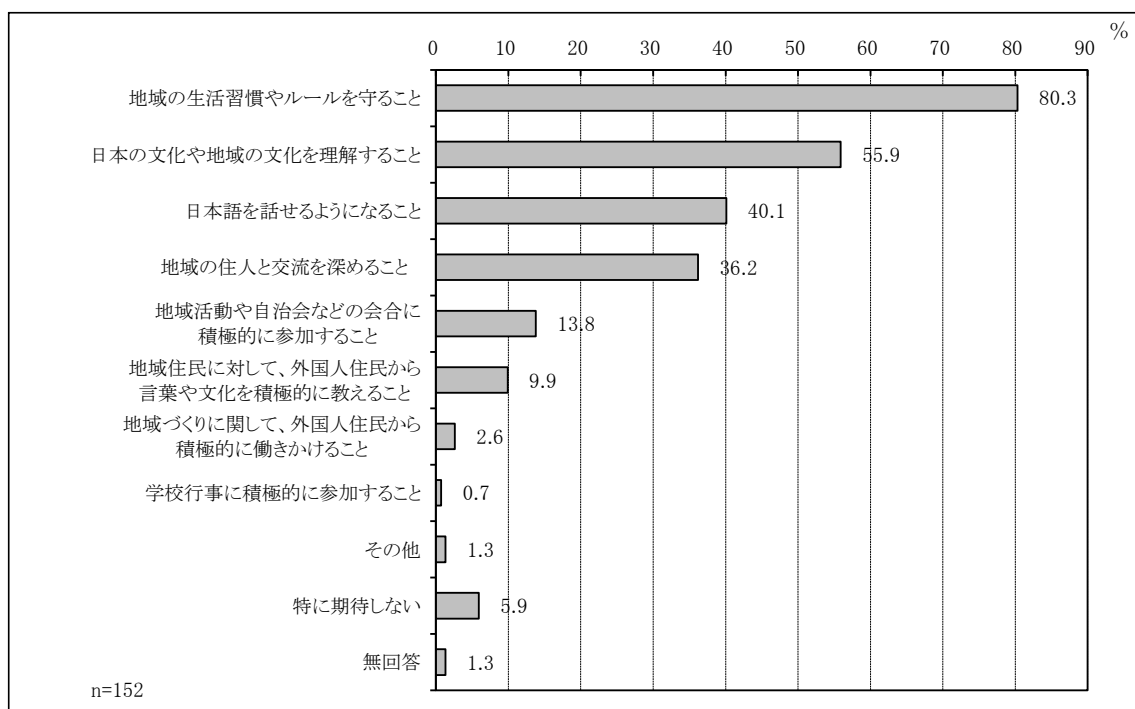
【Q13】外国人とどのような付き合いをしたいと思いますか。



(2) 外国人住民に期待すること

◇外国人住民に期待することについては、「地域の生活習慣やルールを守ること」が80.3%と最も多い。次いで、「日本の文化や地域の文化を理解すること」(55.9%)となっている。

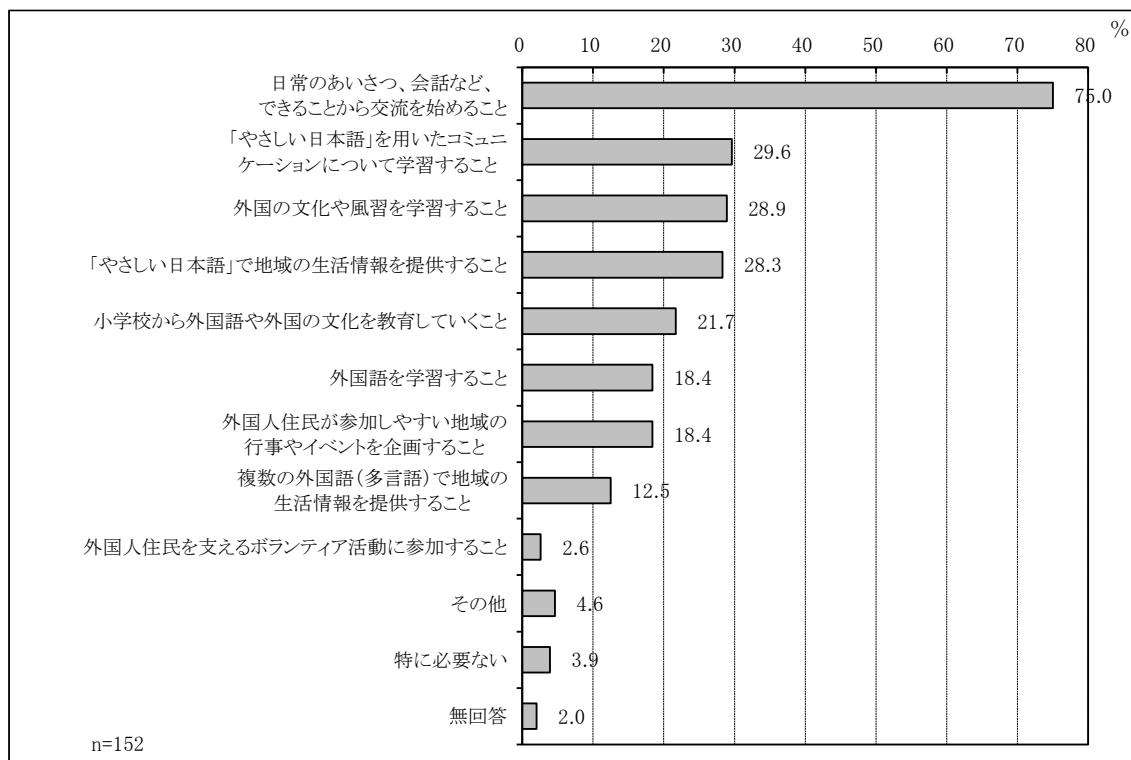
【Q14】外国人住民と共に暮らしやすい社会にしていくために、外国人住民に期待することはどのようなことですか(3つまで)。



(3) 日本人に必要なこと

◇日本人に必要なことについては、「日常のあいさつ、会話など、できることから交流を始めること」が75.0%と最も多い。次いで、「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションについて学習すること(29.6%)となっている。

【Q15】外国人住民と共に暮らしやすい社会にしていけるために、日本人にはどのようなことが必要だと思いますか(3つまで)。

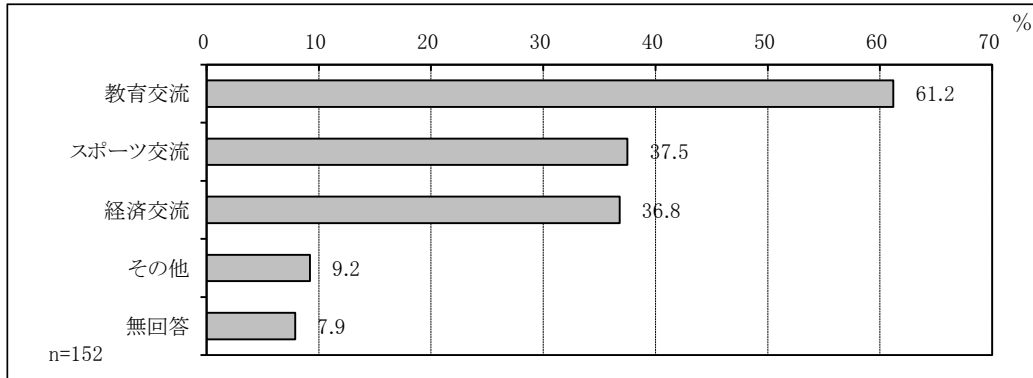


3. 国際交流について

(1) 国際交流について

◇本県の交流先との間で進めるべきことについては、「教育交流」が61.2%と最も多い。次いで、「スポーツ交流」(37.5%)となっている。

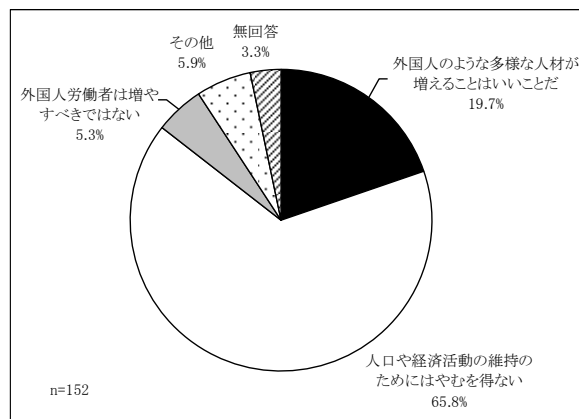
【Q19】 本県の交流先との間で何を進めるべきだと思いますか(複数回答)。



(2) 外国人労働者の受入れについて

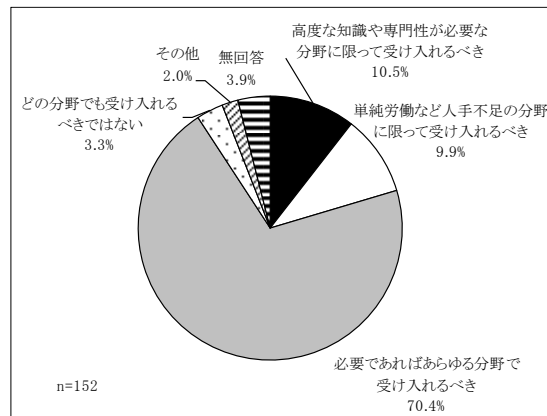
◇外国人労働者の受入れについては、「人口や経済活動の維持のためにはやむを得ない」が65.8%と最も多い。次いで、「外国人のような多様な人材が増えることはいいことだ」(19.7%)となっている。

【Q21】 日本人の人口減少が続く一方、近年、外国人労働者が増加していますが、あなたはどのように思いますか。



◇外国人労働者の受入分野については、「必要であればあらゆる分野で受け入れるべき」が70.4%と最も多い。次いで、「高度な知識や専門性が必要な分野に限って受け入れるべき」(10.5%)となっている。

【Q22】 どのような分野で外国人労働者を受け入れるべきだと思いますか。

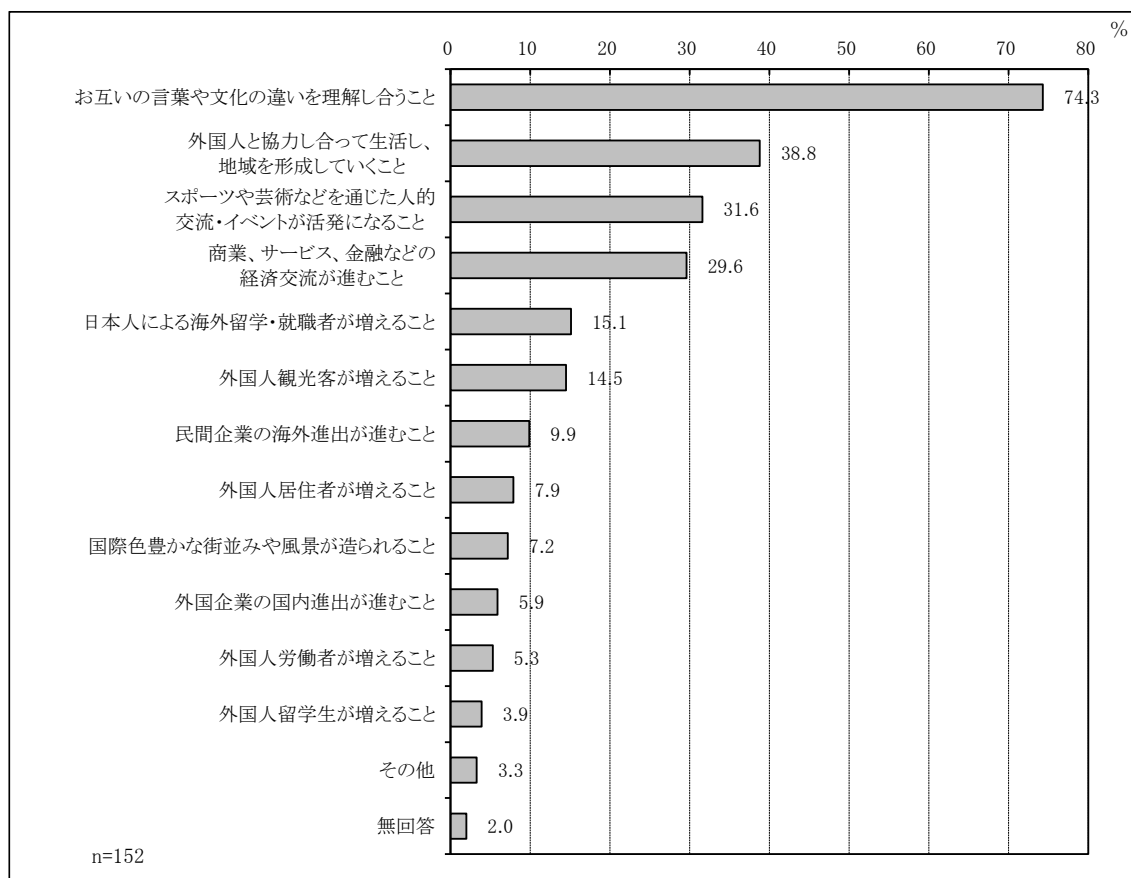


4. 国際化に対する意識について

(1) 国際化について

◇国際化については、「お互いの言葉や文化の違いを理解し合うこと」が74.3%と最も多い。次いで、「外国人と協力し合って生活し、地域を形成していくこと」(38.8%)となっている。

【Q23】 国際化とは、どのようなことだと思いますか(3つまで)。



(2) 国際化の進展に伴う対応

◇国際化の進展に伴う対応としては、「外国人の生活習慣や文化、伝統などに関心を高めていきたい」が44.7%と最も多い。次いで、「外国語を学習したい」(37.5%)となっている。

【Q24】あなたは、国際化の進展に伴いどのような対応をしたいと思いますか(3つまで)。

